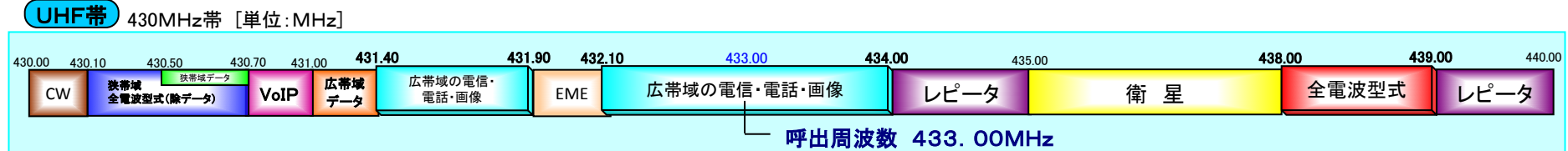
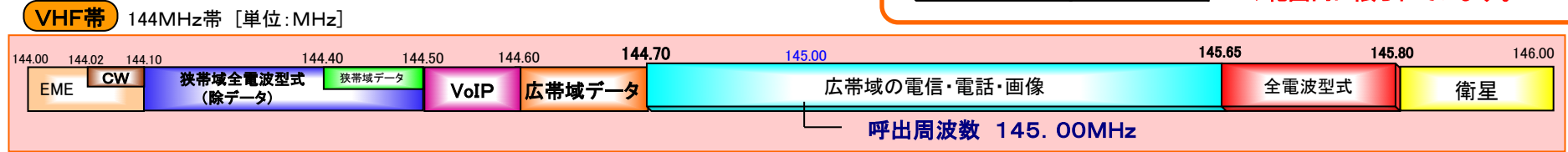


# アマチュアバンド使用区別早見表(144MHz帯、430MHz帯)

広帯域の電信・電話・画像  
全電波型式

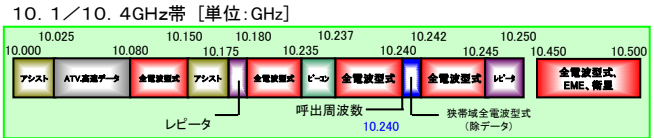
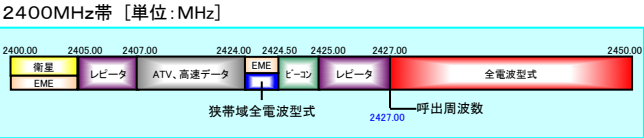
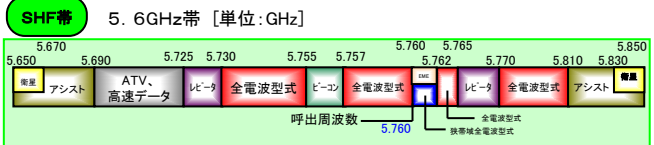
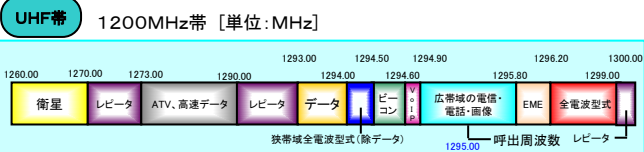
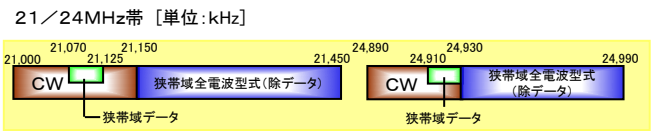
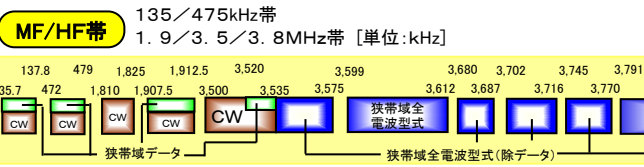
電話(FMTランシーパー)の運用は、この範囲内に限られています。



# アマチュアバンド使用区別早見表(HF帯,50MHz帯,UHF帯,SHF帯)

運用しようとする周波数・用途・電波の型式を確認して、使用区別を守って運用しましょう。

## 使用区別の見方



<b>全電波型式</b>	・全ての電波型式
<b>広帯域の電信・電話・画像</b>	・占有周波数帯幅が3kHzを超える通信 ・FM、D-SATR (DV)モードによる電話通信 ・FMモードでマイクロホン端子に電線などで接続した可聴周波数のモールス符号を入力して行う通信 ・FMモードによるSSTVやFAX等の通信 ・VoIP、RTTY及びデータ電送を除く
<b>広帯域データ</b>	・占有周波数帯幅が3kHzを超えるデータ通信 ・主として、VHF帯以上で行われているパケット通信等
<b>VoIP</b>	・音声を圧縮してパケットに変換した上で、インターネット接続網を介した通信(エコーリンク、WIRES等)
<b>狭帯域全電波型式 (除データ)</b>	・占有周波数帯幅が3kHz以下の通信 (A3Eにあっては占有周波数帯幅3kHz以下) ・SSB、AM等の振幅変調方式の送信機を使った電話通信 ・AMモードでマイクロホン端子に電線などで接続した可聴周波数のモールス符号を入力して行う通信 ・SSBモードによるSSTVやFAX等の通信
<b>狭帯域データ</b>	・占有周波数帯幅が3kHz以下のデータ通信 ・主としてRTTYやPSK31等
<b>CW</b>	・モールス符号により搬送波を断続して行う無線通信
<b>衛星</b>	・人工衛星を利用して行う通信
<b>EME</b>	・月面反射通信
<b>レピータ</b>	・中継局を介して行うFM、D-STAR (DV)モードの通信
<b>アシスト</b>	・SHF帯のデータ通信において、中継局間を結ぶ通信
<b>ATV、高速データ</b>	・SSTVを除くテレビジョン通信 ・占有周波数帯幅が9MHzを超えるデータ通信
<b>ビーコン</b>	・標識信号を送信する電信
<b>データ</b>	・データ通信 (RTTY、PSK31、パケット通信等)

この使用区分に違反して運用した場合は、電波法に基づき無線局の運用停止などの行政処分の対象となります。

※この区別表は、平成27年1月現在のものです。

○無線機にセットする送信周波数は、その占有周波数帯幅を十分に考慮し、いかなるエネルギーの発射もこのアマチュアバンド内に収まるようにし、エッジ(端)周波数はセットしないでください。(無線局運用規則第257号)  
○各使用区分ごとの上限周波数は、当該周波数区分に含まれますが、下限周波数は含まれませんのでご注意ください。

※詳しくは「アマチュア局用電波法令集抄録」や「総務省 電波関係法令集 ([http://www.tele.soumu.go.jp/horei/reiki\\_menu.html](http://www.tele.soumu.go.jp/horei/reiki_menu.html))」等をご覧ください。(電波法第61条、無線局運用規則第258条の2、平成21年総務省告示第179号 平成21年3月30日施行(平成27年1月5日一部改正))